

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 24 年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	中溝 聡	会員番号	0033023
申請者の 所属・職名	京都大学皮膚科 大学院博士後期課程		
出席会議名	アメリカ免疫学会		
発表論文 タイトル	Skin derived $\gamma\delta$ T cells as a source of IL-17 in the lymph nodes and possible initiator in contact hypersensitivity		

実施結果:

この度はTadamitsu Kishimoto International Travel Awardを賜り誠にありがとうございました。選考していただきました先生方、岸本忠三先生に心より厚く御礼を申し上げます。また、今回学会発表を行った研究に関してご指導いただいた椛島健治先生、ご推薦いただきました渡邊武先生、京都大学皮膚科の方々、並びにご協力いただきました共同研究者の先生方に深く感謝いたします。

2012年5月4日から8日までアメリカ合衆国ボストンにて開催されましたアメリカ免疫学会(AAI)に参加し、私が現在研究中の接触性皮膚炎における真皮 $\gamma\delta$ T細胞の動態と役割について口頭発表とポスター発表をさせていただきました。

皮膚の $\gamma\delta$ T細胞は2011年に多くの論文が発表され、慢性の皮膚病である乾癬においてIL-17の主な産生源であることが報告されました。しかし、皮膚 $\gamma\delta$ T細胞の機能やホメオスタシスについては不明な点が多く残されています。

本研究発表では新たに真皮 $\gamma\delta$ T細胞が炎症時に皮膚からリンパ節へ移動し、リンパ節においてもIL-17の重要な産生源であることを示しました。さらに、T細胞の分化を促進することより、皮膚炎反応を修飾することも併せて示しました。

本研究発表を通じて、実験データや今後の研究指針などに関連した多くの貴重なご助言を頂き、今後一層の精進をしようと決意しました。

本会議中の他報告の中には、並体結合による $\gamma\delta$ T細胞の恒常性やセレクチン欠損マウスにおける $\gamma\delta$ T細胞の変化などいった私の研究に関連する興味深い発表がありました。

Xiaodong Jiangは並体結合により表皮の $\gamma\delta$ T細胞は循環しないが、真皮 $\gamma\delta$ T細胞は循環する。さらに真皮 $\gamma\delta$ T細胞はP-, E-selectinを発現しており、P-, E-selectin欠損マウスでは表皮 $\gamma\delta$ T細胞が減少するのに対し、真皮 $\gamma\delta$ T細胞は増加することを報告しました。

Sara ColpittsはIL-15R α KOマウスではIL-17産生 $\gamma\delta$ T細胞が増え、IL-17産生 $\gamma\delta$ T細胞の移動にはIL-15R α が重要であることを発表しました。

これらの研究者と未発表のデータを含めて議論することができ、今後の $\gamma\delta$ T細胞の機能を研究していくうえで大変参考になりました。

今回の受賞を励みとし、本学会中に得られたことを活かして更なる飛躍を目指して研究活動に尽力したいと思っております。